

【担当教員名】 阿部明美	対象学年	2	対象学科	看護
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	90

【<概要>又は<一般目標：GIO>】
看護を必要としている人々を受け持ち、看護過程を実際に展開し看護を実施する。「看護実践法演習」で行った看護過程の展開を、実際に看護を必要としている人を受け持ち展開する。看護過程の展開を用いて看護診断を明らかにし、日常生活の援助技術を中心に対象に必要な看護を実施し評価する。

【<学習目標>又は<行動目標：SBO>】

1. 実習の目的・目標および留意点をふまえ実習方法が説明できる。
2. 実習を行う上で必要な事故防止・倫理的配慮について説明できる。
3. 患者との援助的人間関係が形成できる。
4. 患者の基本的ニーズをアセスメントできる。
5. 患者の看護診断を明らかにし、患者に応じた計画の立案ができる。
6. 日常生活の援助技術を中心に、安全安楽・倫理的配慮を考慮し、患者に応じた援助が実施できる。
7. 実施した援助が評価できる。
8. グループダイナミクスやカンファレンスの意義について述べることができる。
9. グループメンバーと協力してカンファレンスが実施できる。
10. 実習での学びを通して今後の学習課題を明確にすることができる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
	1. 学内オリエンテーション 2. 病院・病棟オリエンテーション 3. 病棟実習（2週間） 1) 一人の患者を受け持ち実習を行う 2) 患者にとっての基本的ニーズをアセスメントし、看護診断を見出し計画の立案および援助を実施する 3) 看護過程の各段階を、所定の記録用紙に整理する 4) カンファレンスの実施 5) 実施した援助の評価 4. 実習のまとめ	1, 2, 8	実習グループを編成し、各実習施設にて実習を行う。 （基礎看護学教員および他の看護学科教員）
		1, 2 2-9	
		10	

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)				
参考書				
その他の資料	実習要項 プリント類			

【評価方法】 出席状況（10%） 実習目標の達成状況（70%） 終了レポート（20%）	【履修上の留意点】 1. 看護実践法演習・基礎看護学実習Ⅰを履修していることが前提である。 2. 対象の安全・安楽の確保やプライバシーの保護など、倫理的な配慮には十分に留意する。 3. 日常生活の援助技術・フィジカルアセスメントの事前学習を充分行い実習に臨むこと。 4. 看護過程の展開方法について、振り返りを充分行うこと。
--	--